

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272100221		
法人名	社会福祉法人 旭悠会		
事業所名	グループホーム メタセ		
所在地	千葉県習志野市新栄1-10-2		
自己評価作成日	平成23年9月18日	評価結果市町村受理日	平成23年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で居心地の良い生活環境を整え、生活に刺激のある行事や外出、一人ひとりの生活史を参考にし馴染みのある場所に出掛けるなど日々の「楽しみ」を提供しています。平均年齢88.8歳と高齢ですが、毎日家事や散歩など元気に過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・入居者お一人おひとりの豊かな人生経験と尊厳を重視する・入居者の能力を活かした役割分担により充実した生活の実現・家庭的な雰囲気と自立した生活を守る支援体制を整える、等の具体的で分かり易い理念の実践に向けて職員が一丸となって意欲的に取り組んでいる。利用者の平均年齢が89歳であるが、外出・散歩を日課として行い、食事の準備・後片付けなど自分の役割と決めて積極的に参加している姿と生きいきとした表情が印象的である。職員は利用者とのコミュニケーションに気配りしてその関係は良好で、職員と会話を楽しみながらの食事風景は明るく、賑やかである。それでも親しむあまりの押れあいを戒めるため、「マナー向上に向けて！」をスローガンにして更にサービスの質の向上を目指している。今回の利用者家族アンケートには安心と信頼・感謝の言葉が多数寄せられている。表玄関からは直接見通せない場所に位置しているため目立たないが、利用者職員が一体となった素晴らしいグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示することで共有している	「入居者一人ひとりの豊かな人生経験と尊厳を重視する」「入居者の能力を活かした役割分担により、充実した生活の実現」等4項目の理念は、職員にとって具体的で分かり易い。悩んだ時・困難に直面した時は理念に立ち返って考え、行動し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や近隣への散歩や買い物 運営推進会議等で地域の方々と交流している	併設のデイサービス・特別養護老人ホーム等と共催のお祭りに近隣の人を多数呼んだり、幼稚園の運動会への参観の誘いを受けたり、またボランティアも受け入れて一緒に外出・お話し会等地域とのつながりを積極的に行っている。是非継続していただきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けての取り組みは現在行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの現状を報告し外部出席者からアドバイスを頂いている	途切れがちだった運営推進会議は今年既に2回開催し、介護相談員・地域包括支援センター・家族のメンバーで実施、現状報告や意見を頂いている。管理者は更に参加メンバーを増やしたいと意欲的である。	11月に開催予定の会議には今回の外部評価結果をテーマに、現状と目標達成計画を説明されると良い。運営推進会議が改善課題のモニター役を担って頂くことにより、サービスの向上に結び付かれていられる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常日頃から密に連絡を取っていないが必要に応じて連絡を取っている	主に法人が市町村と連携しており、ホームとしては必要に応じて連絡をとっている。	例えば、今回の外部評価票の提出時に、ホームの実情を説明したり目標達成計画の報告をするなど、積極的に働きかけて連携を密にするよう希望する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で開催される研修で学んでおり、身体拘束に関する資料を部署内に置き理解している	身体拘束に関する教材・資料で内部研修を行っており、拘束ゼロを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で開催される研修で学んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で開催される研修で学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を含め、丁寧に説明をして同意を得られるようにしている。改定等の場合 書面・口頭にてご家族へ十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常のコミュニケーションで要望・意見を伺い、家族には面会時に意見や要望を伺っている	利用者毎の様子を毎月家族メモで情報の発信を行ない家族からの希望や意見を聞いたり、面会時に要望を聞いて運営に反映させている。今回のアンケート調査の意見欄から、ホームが言い易い雰囲気作りに配慮して接している事が今回のアンケート調査から窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時職員間のコミュニケーションを密に取っている	グループホーム会議の場や、休憩時間・仕事の開始前等の時間を利用して職員の意見を吸い上げ運営に反映させるようにしている。管理者が常に職員が話し易いような場作りに努めている事は、今回の職員インタビューからもうかがえた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップシートにて個々の目標を把握し面接にて各自の思いを聞き必要に応じて環境や設備の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設として年間計画の中で研修・勉強会などで学んでいる また、外部の研修にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在同業者との交流はしていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からご本人についての情報を聞いたうえで本人とゆっくり話す時間を設け、コミュニケーションを取り、離しやすい環境・関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接の際にゆっくり離す時間を設け、ご家族が困っている事・不安に思うことを傾聴し信頼関係が築けるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を聞き、必要ならば他サービス等の説明を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を一緒に行うことで対等な立場を保っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居してもご家族と外食・外出したりする等本人と家族の絆を大切にしている。又ご家族とは情報交換を密に取っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住んでいた家に帰る・墓参り等馴染みの習慣を継続できるようご家族協力のもと支援している	家族の協力を得て、今まで住んでいた家に帰る・馴染みの店での食事・墓参りなどで支援している。また、花見など季節に合わせたバスハイクを企画・実施して馴染みの場所へ出掛ける等支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のコミュニケーションの中で利用者同士の関係を把握し必要に応じて見守り・声掛けを実施しているが、決して無理強いはいしない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者及び家族との継続的なかわりは無い		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向について話し合い、日々のかかわりの中で把握している	一人ひとりの話を聞き、思いの理解に努めている。言葉からは把握が困難な場合は表情やしぐさから思いや希望を掴むようにしている。	利用者個々の周辺情報を更に多く収集し、思いや意向を把握するためにセンター方式の利用にチャレンジされることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との日々の会話から、これまでの生活や馴染みの暮らし方を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主に日々のケース記録やミーティング等で情報を共有し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に本人の様子等を報告し、意見を頂く。 職員はケース記録・カンファレンスで意見を出している	家族・本人の希望や願いと、現場の職員が日々の生活の中から得た情報をもとにチーム全員で意見交換がなされ、利用者個々に合ったケアプランを作成している。また、定期的にモニタリング・評価されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の暮らしの様子や気づきを記入。ケース記録にて情報の共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が発する様々なニーズに対応し、職員が柔軟な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族から情報を頂き、一人ひとりに合った地域資源を活用できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関にて家族の付添で受診するが、必要に応じて施設での様子を書面や同行受診にて医師に伝える等適切な医療を受けられるよう支援している	利用者のほとんどは提携医療機関での受診である。他の医療機関受診は家族支援で受診し、利用者のケース記録にて情報の共有がされている。緊急時、夜間の対応マニュアルが整備され利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態は併設の看護師と相談しながら日常の健康管理を行っている 24Hオンコール対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院関係者と情報交換を行うが 入院する場合に備えての関係作りは積極的に行っていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けての十分な話し合いは出来ていない	入所時、重度化した場合の対応に係る指針を説明し納得・同意を得ている。医療の度合いが大きくなって来た場合には医師・家族・ホームで話し合いを持って最良の方法を採ることになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の研修は行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練は年3回行っている 訓練には地域の方にも参加して頂き協力体制を築いている	年3回防災訓練を消防、地域住民、併設施設の協力を得て実施している。法人(複合施設を持つ)として水、食料の備蓄は確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でお互いの言動を指摘し合い、利用者のプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で気付いた事について折に触れ話し合う様にしている。「マナー向上プロジェクト」を設置して、利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でより多くの選択肢を提供し、本人が何がしたいのかを見極め支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴の時間以外は本人の望むことを支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の入居者は、その日に着る服をご自分で選んでいる。又迷っているようなら一緒に選ぶ等楽しみながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に調理・片付けを行っている 食事中は会話が絶えず明るく楽しい食卓になっている	施設全体の給食サービスが基本であるが火、金の昼食はグループホーム独自にメニュー・買い出しを利用者と共に行っている。調理・味付け・配膳・片付けなどにも利用者が参加している。職員達との会話が弾み、賑やかで楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜等食事の一部は併設の厨房より提供 食事・水分の摂取量が少ない場合は、時間をずらして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛けを行っている 本人の力に応じて職員が介助に入る事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導と、個人の排泄パターンを把握した上で支援している	利用者の生活リズムの把握でトイレ誘導を行っている。散歩、水分補給等の対応で便秘対策がされていて利用者の殆どが自立排便である。便秘等のある時は看護師の指導で対処し、利用者個人のケース記録で情報の共有がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取にてなるべく自然排便できるよう支援しているが、自然排便が困難な場合は医師と相談し、下剤等の処方・服用も検討する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度時間は限られているが、その中で本人のタイミングに合わせて声掛けをし、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している	バリアフリー、低めの浴槽、滑り止め床等整備され清潔に保たれている。入浴時間は利用者の意向に沿えるように対応しており、浴槽の温度にはそれぞれ好みがあるので利用者の希望に合わせて調節する等の入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠る前に温かい飲み物を飲む・他者と談笑する 不安を訴えてこられたら傾聴する等個々の状況に応じて対応し、安心して頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋の内容を確認、把握している 誤訳の無いように2人以上の職員でチェックしている。又服薬後体調の変化に気をつけ変化があればケース記録に記入し情報の共有に努める		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し、役割分担をしている 外食や外出の際はどこへ行きたいか皆で話し合っ決めて決めることもある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を職員と家族が協力して支援している	散歩は毎日！を基本とし、利用者の歩行能力に合わせた距離の散歩が行われている。公園や買い物等のための外出で、馴染みの構築が出来る様に努めている。家族訪問時の外出等本人自由な行動の支援をしている事がアンケートからも窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設で行っているが、中には小遣い程度のお金を所持している方もいる 買い物では、職員見守りのもと支払をすることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人・親戚から手紙が来ることもあるが、返事を出したことはない 家族には年賀状を出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に作った作品をリビングや玄関等に飾っている	共有空間の掃除、整頓等は利用者の能力に応じ自主的に実施され清潔に保たれている。自由に雑談を楽しむ和やかな雰囲気が出ている。玄関その他の壁面には入居者・職員の共同作品や写真が飾っており、更に季節感を出す飾り付けにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは利用者同士会話を楽しむ姿が見られている 天気の良い日は玄関前ベンチで日なたぼっこをすることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具や本人の思い出の品を持ってきていただき、居心地の良い環境づくりをしている	居室は利用者・家族と相談の上、馴染みの品物を持ち込んだ夫々の部屋作りがされていて、画一ではない。清潔で、冷暖房も完備しており居心地良く暮らし続けられるような環境作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全に動いていただけるようになってる 場所を示すプレート等を取り付け、混乱せず生活して頂けるように工夫している		